News Release

2026年11月17日
株式会社ウィルオブ・ワーク

外国人介護職員の「国家資格取得の壁」をスマホで解決
ふりがな・専門用語解説付き介護福祉士試験対策サービス「STADIV」提供開始
～1日数分から学べる2,000問以上の一問一答で、働きながら資格取得を支援～

総合人材サービスを手掛ける株式会社ウィルオブ・ワーク（本社：東京都新宿区、代表取締役社長：村上 秀夫）は、日本の介護現場で働く外国人に向けた介護福祉士国家試験対策サービス「STADIV（スタディブ）」を、2026年11月より開始しました。

「STADIV」は、日本で働く外国人が介護福祉士国家試験の合格を目指せるよう、ふりがなや専門用語の解説を備えた試験対策サービスです。問題文や解説へのふりがな表示、専門用語の解説機能など、日本語を学びながら国家試験に挑戦する外国人材に配慮した機能を搭載しています。また、過去4年分の試験問題と2,000問以上の一問一答を収録し、スマートフォンなどから1日数分で学習できるため、シフト勤務などでまとまった学習時間を確保しにくい介護職員も、自分のペースで試験対策に取り組めます。介護事業者などの法人に加え、個人からの申し込みにも対応しています。

サービス案内ページは、日本語・英語・ベトナム語・インドネシア語・ミャンマー語・ネパール語の6か国語で展開しています。



外国人向け介護福祉士国家試験対策サービス開始の背景

介護業界では、特定技能などの在留資格で働く外国人介護人材の受け入れが進んでいます。外国人介護人材にとって、介護福祉士の国家資格取得は、専門性の向上に加え、在留資格「介護」への移行を通じた中長期的なキャリア形成につながります。また、受け入れ先の介護事業者にとっても、人材の育成や定着につながることから、資格取得は双方にとって大きな節目となります。

一方で、2026年1月に行われた第38回介護福祉士国家試験では、受験者全体の合格率が70.1%だったのに対し、経済連携協定（EPA）に基づく特定技能1号の合格率は33.0%にとどまりました（厚生労働省発表）。外国人受験者にとっては、介護に関する専門知識の習得に加え、日本語による専門用語や設問を理解する必要があります。

さらに、介護現場ではシフト勤務が中心となることから、仕事と試験勉強を両立できる学習環境の整備が課題となっています。

News Release

株式会社ウィルオブ・ワーク

当社はこれまで、外国人介護人材の就労支援や日本語能力試験（JLPT）対策、介護福祉士国家試験対策のオンライン講座を実施しており、2025年には当社が支援する特定技能外国人48名が介護福祉士国家試験に合格しています。しかし、決められた時間に講座を受講することが難しい職員も多く、個々の勤務状況に応じて継続的に学習できる仕組みが求められていました。スマートフォンで学べる試験対策サービスは多くあるものの、外国人の学習者に配慮した学習環境は十分とはいえません。

こうした課題を踏まえ、ウィルグループが展開する施工管理技士検定対策アプリ「STADIV」の仕組みを活用し、外国人介護人材に特化した介護福祉士国家試験対策Webアプリを開発しました。

サービスの特長

1．ふりがな・専門用語解説で、外国人介護職員の学習をサポート

問題文、選択肢、解説にふりがなを付け、やさしい日本語で説明しています。解説に出てくる専門用語はタップするとその場で意味を確認でき、1,000語以上を収録した用語集では、覚えたい用語を保存して後から見返すことも可能です。日本語能力試験N3程度の方から利用ができ、日本語を学びながら介護福祉士の国家資格取得を目指す外国人職員を支援します。問題や解説は、当社の介護資格取得支援サービス「WILLOF ケアアカデミー」の講師が確認しています。

2．全13科目をテーマごとに、1日数分からすき間時間で学習

過去4年分の試験問題と、選択肢ごとに分けた2,000問以上の一問一答を収録しています。全13科目をテーマごとに分け、1回10問、1日数分から取り組めるため、通勤時間や休憩時間などのすき間時間を活用して学習ができ、間違えた問題は覚えるまで繰り返し出題されます。また、第38回試験から始まった「パート合格」制度に対応し、すでに合格したパートの問題を除いて学習ができます。

3．法人向けの管理機能で、職員の資格取得を支援

法人向けには、管理者の画面から職員一人ひとりの学習状況や進み具合を確認できます。学習が進んでいない職員やつまずいている職員を把握し、個々の状況に応じた声かけや学習支援につなげられます。アカウントは1つから発行できるため、受験予定者が少ない介護事業所でも導入しやすくなっています。また、当社が提供する日本語教育・学習サポートと組み合わせることで、資格取得と日本語学習の両面から外国人職員を支援します。



News Release

株式会社ウィルオブ・ワーク

サービス概要

サービス名	**STADIV 介護福祉士国家試験対策サービス**
対象	日本で介護の仕事に就いている、または介護の仕事を目指している外国人の方 （日本語能力試験N3程度から）
提供形式	ウェブサービス （スマートフォン・タブレット・パソコンのブラウザから利用可能。インストール不要）
料金	個人：3か月（90日）3,300円（税込） （自動更新・課金なし） 法人：お問い合わせください
お申し込み	法人：1アカウントから発行可能 個人：案内ページからお申し込みいただけます
提供開始日	2026年11月
無料体験	最初の7日間は無料（自動更新・課金なし）
サービス案内ページ	日本語　：https://stadiv.com/kaigo 英語　：https://stadiv.com/kaigo/en ベトナム語　：https://stadiv.com/kaigo/vi インドネシア語　：https://stadiv.com/kaigo/id ミャンマー語　：https://stadiv.com/kaigo/my ネパール語　：https://stadiv.com/kaigo/ne
販売・申込窓口	株式会社ウィルオブ・ワーク

利用者の声

インドネシア出身の利用者

「漢字にふりがなが振ってあり、解説もやさしい日本語なので、とても分かりやすいです。テキストを開かなくてもスマートフォンですぐに問題を解けるので、仕事の休憩中や移動中などのちょっとした時間でも勉強できます。つまずきにくい作りになっていて、続けやすいのも魅力です。問題を解くと自分がどこを理解できていなかったのかが分かるので、そこからテキストを読み直すことで、理解がさらに深まりました。」

ミャンマー出身の利用者

「すき間時間に学習できるところに、一番のメリットを感じています。体の部位など、テキストにはなかなか載っていないイラストでの解説もあり、とても理解しやすかったです。今後オリジナル問題がさらに増えれば、もっと力試しができると期待しています。」

株式会社ウィルオブ・ワーク

今後の展望

当社は、本サービスを通じて外国人材の介護福祉士国家試験の合格を支援するとともに、外国人材を受け入れる介護事業者への法人向け提供を拡大してまいります。
当社が登録支援機関として支援する特定技能外国人のうち、2026年1月に実施された第38回介護福祉士国家試験では292名が受験し、137名が合格しました。合格率は46.9%と、前年から16.1ポイント上回りました。今後は、これまで提供してきた実務者研修や日本語教育、試験対策に本サービスを加え、すき間時間にも自主的に学習できる環境を整えることで、2027年1月に実施予定の第39回試験でのさらなる合格者の増加を目指します。

あわせて、外国人職員を受け入れる介護事業者向けには、学習状況の可視化を通じて介護事業者による職員の資格取得支援を後押しし、人材の育成・定着につなげてまいります。
厚生労働省の推計では、2040年度までに約57万人の介護職員を新たに確保する必要があるとされています。当社は、外国人材の資格取得支援から介護福祉士としての就労支援までを一貫して担い、外国人一人ひとりが日本の介護現場で長く活躍できる環境づくりを進めるとともに、介護業界の人材不足の解消に貢献してまいります。

申し込み受け付け中

「STADIV」の利用申込を受け付けております。
申込方法：下記フォームからお問い合わせください。
申し込みフォーム： https://stadiv.com/kaigo/business

【導入検討企業様またはサービスに関するお問い合わせ先】
株式会社ウィルオブ・ワーク　ライフケア事業部　外国人雇用支援営業部
STADIV担当者宛
TEL: 03-6850-8508（平日10:00-19:00）　e-mail： info_stadiv_kaigo@willof.co.jp

【本リリースに関するお問合せ先】
株式会社ウィルオブ・ワーク

広報担当：渥美（あつみ） https://willof-work.co.jp/
〒162-0022 東京都新宿区新宿三丁目1番24号　京王新宿三丁目ビル3階
TEL: 090-8216-4492　MAIL: pr@willof.co.jp

■ **「開示情報やニュースリリース」の最新情報** ■
当社グループのニュースリリースや開示情報等最新情報は、URLまたはQRコードからご覧いただけます。
ウィルグループ（親会社）「IRページ」URL：https://willgroup.co.jp/ir/